

令和7年度秋田大学大学院医学系研究科
医科学専攻（修士課程）入学試験
（1回目）

小論文

令和6年9月3日（火）（12：40～14：10）

試験終了後、解答用紙のみを提出してください。

監督者の指示があるまで、問題を開かないでください。

問題数	3問
問題用紙	3枚
解答用紙	2枚

以下の文章を読んで設問に答えなさい。

(本文省略)

(本文省略)

(本文省略)

＜出典：リチャード・ハリス著、『生命科学クライシス 新薬開発の危ない現場』，寺町
朋子訳，篠原彰解説，白揚社，2019，p.245-249 より抜粋，一部改変＞

問 1 ①に入る文章を 20 字以内で答えなさい。

問 2 下線②「さあ、どうでしょう」に関してあなたの予想と、あなたならどうするかを 200 字以内で述べなさい。

問 3 下線③に関して、本文を踏まえた上でシステムや制度として必要なものは何か、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

医科学専攻（修士課程）「小論文」解答用紙

1/2

問 1 【 ① 】に入る文章を 20 字以内で答えなさい。

（横書き）

20×1

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(20 字)

問 2 下線②「さあ、どうでしょう」に関してあなたの予想と、あなたならどうするかを 200 字以内で述べなさい。

（横書き）

20×10

(200 字)

【解答例・配点】（配点 100 点）

問 1 ①に入る文章を 20 字以内で答えなさい。（20 点）

解答：バイオマーカーと病気の関連を述べた論文（17 字）

問 2 下線②「さあ、どうでしょう」に関してあなたの予想と、あなたならどうするかを 200 字で述べなさい。（40 点）

解答：科学者は往々にして自分の行き詰まりを認めにくく、手を引いたとて地位を保てる保証がない。また研究には多額の費用がかかる。よって厳密な研究をするよりは、審査の緩い雑誌に投稿してしまう可能性が高いと思われる。一方であるべき態度としてはより厳密な追加研究を行い論文の質を上げることであり、自分としては厳密な研究に向けて追加実験をし、再現性を有する発表に努力したいと考える（182 字）。

問 3 下線③に関して、本文を踏まえた上でシステムや制度として必要なものは何か、あなたの考えを 300 字で述べなさい。（40 点）

解答：本文ではジョシュ・ラベアの取り組みが紹介されている。彼は科学誌の編集者の立場を利用し、科学誌への投稿論文の受付に関してかならず仮説に基づいた検証を重ねた論文だけを掲載すること決めている。このように、科学誌の論文掲載の厳密化が一つの方法である。また、本文では厳密で再現性の高い研究にはお金がかかることが指摘されている。有望性の高い研究への国家や製薬企業による更なる金銭的サポートが期待される。最後に、成功だけを報告するのではなく、仮説に反したり、うまくいかなかった研究も社会に知らされるべきである。これらを積極的に行うことができる科学誌の普及やネット環境を利用した情報共有方法を探ることも重要と考える（299 字）。